

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○:イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるように
カナで奇跡を行いました。(×:カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 教会教育部

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。
すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教師ノート

週課	第二年 第一課 第一週
単元	創世記・5
テーマ	ねたみ
タイトル	ヨセフの夢
テキスト	創世記37章、39:1-6
参照箇所	
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	第一コリント13:4
AG 日曜学校教案参照箇所	小下 2 巻 5 題 5 課
メモ(情報・例話など)	<p>今月はヨセフ物語です。全体を通しては、人間が起こす様々な出来事も、すべて神の支配のうちであり、究極的には神の計画だけが成し遂げられることを学ぶことができます。各週のメッセージでは、ねたみ・試練・赦しといったテーマを扱いますが、教師は創世記37～50章までをよく読み、全体像をしっかりと把握しましょう。神がこのとき既に、全世界を救う計画を進めておられたこと、ヨセフに見られるキリストの型などを通して、こどもたちが神の偉大さをあがめ、聖書の奥深さに興味をもつように語りましょう。特に「ヨセフの夢」は、ヨセフ物語全体に関わる、大切な箇所です。</p>
□導入	<p>例:ヤコブには12人の息子たちがいました。今日から、ヤコブの愛する息子ヨセフ(下から2番目)を中心としたお話です。ヨセフが見た夢のせいで、兄弟たちはヨセフをねたみました、なぜでしょう？あなたは、「お兄さんばかり得をしている」とか、「妹は叱られなくてズルい」とか思ったことはありませんか？</p>
□ポイント1 ヨセフは兄たちにねたまれました(37:1-11)	<p>ヨセフは父ヤコブが歳をとってから生まれた子だったので、他の兄弟(兄10人と弟1人)よりも、かわいがられていました。ヤコブは、ヨセフにだけ特別な着物を作ってあげました。それでお兄さんたちは「何だよ、あいつばかり！」と、ヨセフをねたみ、いつも怒っていました。そんなある日、ヨセフは自分の見た不思議な夢について、兄さんたちに話しました。「僕たちは畑で麦束を作っていました。僕が1つの束を作って地面に置くと、その束がまっすぐ立ち上がりました。すると兄さんたちの束は、僕の束におじぎをしたのです。」この話を聞くとお兄さんたちは、「お前が私たち兄弟の支配者になるとも言いたいのか！」と、ますますヨセフを憎むようになりました。またある晩、ヨセフは夢をみて、「僕は太陽と月と11の星が僕を拝んでいる夢を見ました」と家族に話しました。父ヤコブは「兄弟だけでなく、父・母までも、家族みんながお前を拝むようになるとも言うのか！」とヨセフを叱りました。兄さんたちは、ヨセフをねたむ思いが非常に強くなり、もう憎らしくてたまらなくなりました。ヤコブは、この夢を通して神さまがどんなことを語っておられるのか考えました。</p>
☞旧約の時代、神が夢を通してメッセージを伝えるというのは、一般的な理解でした。	
☞長服を作るという行為から、ヤコブが意識的に、他の兄弟とヨセフとの区別を明らかにしようとしていたことがうかがえます。ヤコブがヨセフを偏愛した理由について、29～30章を読んで、より深く理解しておきましょう。	

□ポイント2 兄たちはヨセフを商人に売りました(37:12-36)

ある日、ヨセフは父ヤコブから、シュケムに行って、そこで羊の世話をしている兄さんたちの様子を見てくるように頼まれました。ヨセフは素直に引き受け、荒野を歩いていきました。兄さんたちは、シュケムからドタンに移動していました。兄さんたちは、ヨセフがやってくるのを遠くに見て、彼を殺す計画をたてました。彼らの心に、以前からのねたみの思いが湧き出して、「しめしめ…、これはチャンスだ」と思ったのでしょうが、弟を殺そうとは、なんて恐ろしい考えでしょう。長男のルベンだけが、それに反対しました。「殺してはならない。せめて、出られないような穴に入れるだけにしよう。」ヨセフは兄さんたちによって、大切な長服を剥ぎ取られ、深い穴に投げ落とされました。その後、兄さんたちが食事をしていると、ラクダに荷物を乗せて、エジプトへ行く商人たちが通りかかりました。ユダは「ヨセフをただ殺しても、何の得にもならない。彼を奴隷として売れば、お金が手に入るぞ」と言いました。他の兄弟たちも賛成しました。穴から出され、銀貨20枚(レビ27:5)で商人に引き渡される間、ヨセフはどんな気持ちだったでしょう。ルベンはその時、その場にいませんでした。彼がヨセフを助けに来たときには、もう手遅れでした。

□ポイント3 ヨセフはエジプトに連れて行かれました(39:1-6)

兄さんたちは、ヨセフの長服にヤギの血をつけて、父ヤコブのところにもって帰りました。ヨセフを売ったことがバレたら、ヤコブは彼らに厳しい罰を与えたはずですが、それを恐れて、彼らはウソの報告をしたのです。ヤコブは、死んでしまいたいと思うくらい、ひどく悲しみました。ヨセフは、ミデヤンの商人たちによってエジプトへ連れて行かれました。ここからはエジプトで起こったことのお話です。エジプトへの熱い砂漠を旅する間、ヨセフの心は深い悲しみと不安でいっぱいだったでしょう。エジプトに着くと、ポティファルという、宮廷でパロの側近くに仕える役人の長が、ヨセフを奴隷として買い取りました。兄弟にひどいめにあわされ、奴隷として売られるとは、なんて辛いことでしょう。あなたなら、どん底の中で、その先の自分の人生をどのように考えるでしょうか。しかし神は、ヨセフを「幸運な人」としてくださったのです。ヨセフは主人に非常に気に入られ、その家の全財産の管理まで、信頼して任されるようになりました。主がヨセフとともにおられ、彼のすることすべてを成功させてくださったのです。

📖 パロ…古代エジプトの王の称号

□結論 ヨセフは兄たちにねたまれ、エジプトに売られました 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

ヨセフの兄弟は、ヨセフを売ってしまった後、幸せな気持ちになったと思いますか？ヨセフをねたむ気持ちから、大きな罪を犯してしまい、その結果、家族がバラバラになってしまいました。ねたんだり、憎んだりする気持ちを捨てて、人を愛せる人になりましょう。みなさんは友だちや兄弟をねたんでしまうことはありませんか？「あの子はいつもほめられる」「アイツばかりみんなに人気がある」「私より勉強ができる」「俺よりたくさんオモチャをもってる」「いつも兄(弟)ばかり得をしている」「いつも姉(妹)ばかりかわいがられる」そう思うことはありませんか？それでそのお友だちをキライになったり、兄弟に意地悪をしたくなってしまうことはありませんか？「ねたみ」は悪い思いです(ガラテヤ 19:21、マタイ 27:18、ローマ 1:29,13:13、Iコリント 3:3等)。お祈りをして、ねたむ心を取り除いていただきましょう。

人をねたんだり、うらやましがったり、蹴落としたりする必要はありません。なぜなら、あなたを愛し、あなたのすることをすべて祝福してくださるイエスさまがともにおられますから。ヨセフの兄弟は彼を売り飛ばしてしまいましたが、神さまはヨセフを決して見放しませんでした。それどころか、幸運を与え、ヨセフのすることを何でも成功させてくださいました。ヨセフは主人に非常に気に入られ、その家の全財産の管理まで、信頼して任されるようになりました。聖書には、「主が彼とともにおられ、主が彼のすることすべてを成功させてくださるのを見た。」とあります。ヨセフは確かに、一生懸命努力して、主人に仕えたでしょう。しかしヨセフが成功したのは、彼の努力や才能ではなく、ただヨセフとともにいてくださる神さまのお蔭なのです。不幸のどん底にいても、ともにいてくださる神さまを信じましょう。

教師ノート

週課	第二年 第一課 第二週
単元	創世記・5
テーマ	栄えさせてくださる神
タイトル	監獄の中でも
テキスト	創世記39:7～23
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 創世記39:23
AG 日曜学校教案参照箇所	小下 2 巻 5 題 6 課、小上 1 巻 1 題 8 課
□導入 興味を起こす質問をしましょう。	あなたは、だれかから罪を犯すように命令されたことはありますか(アイツを仲間はずれにしよう、いっしょに万引きしようなど)? 濡れ衣をきせられたことはありますか(自分がやったんじゃないのに罰を受けた、ウソをついていないのに責められたなど)?
□ポイント1 ヨセフは罪を犯しませんでした(7～10節)	ヨセフは、ポティファルの家で、非常に気に入られ、すべてのことを信頼して任されるようになりました。神は苦しい経験をしたヨセフを幸福にしてくださいました。しかし、そんなヨセフに、また、とんでもない災難が起こります。ヨセフの主人ポティファルの奥さんが、ヨセフを誘惑して、罪を犯させようとした。しかしヨセフは、ハッキリとそれを断りました。「どうして、そのような大きな悪事をして、私は神に罪を犯すことができましょうか。」そして、誘惑の声にはまったく耳を貸しませんでした。
☞ヨセフにとって、この誘惑に勝つのは決して簡単なことではありませんでした。ヨセフは奴隷の身分でしたから、ご主人の奥さんの言うとおりにしないと、クビにされるかもしれませんでした。せっかくどん底から抜け出して幸福になったのに、またクビになるのは恐ろしかったでしょう。また、お世話になっているご主人の奥様を傷つけてはいけないという、優しい気持ちも働いたでしょう。私たちは、このような場面になったとき、自分に都合のいいように考えて「奴隷だから奥さんに従わなくては・・・」「浮気まではしないけれど、仲良くしてあげないとかわいそうだ」などと、つついサタン <small>の</small> 誘惑につけいるスキを与えてしまいがちです。しかしヨセフは、 <u>彼が祝福されているのは、主人のおかげより前に、神のおかげだと深く理解して</u> いました。だから、クビにされる心配より、まず、 <u>神にしたがうことをまず第一にすることができたのです</u> 。そして、誘惑に耳を貸すこともせず、彼女と距離を保ち、罪を犯す可能性を遠ざけました。	
□ポイント2 ヨセフは監獄に入れられました(11～20節)	ある日、ヨセフがポティファルの家の仕事をしていたときのことで。たまたま家の中には他にだれもいませんでした。ポティファルの妻がヨセフに近寄り、「ねえ、ちょっと私の部屋に来てくださらないかしら」と、ヨセフの服をつかんで言いました。ヨセフはまた悪い誘いだと気づいて、走って外へ逃げました。そのとき、上着が脱げてしまいました。(ヨセフは誘惑に気づいて、罪を犯すくらいなら、クビになった方がましだと考えたのです。自分の身分を捨て、神を第一にするため、必死で走って逃げたヨセフは立派です。)彼女は、ヨセフが逃げたのを見ると、残された上着を手にしたまま、とつぜん叫び声をあげました(彼女は、ヨセフに腹を立てたのと同時に、おそらく、このことをヨセフが主人に言いつけるのをおそれ、とっさにこのような行動にでたのでしょう)。何事が起こったのかと、他のけらいたちが駆けつけました。すると、「あのヘブル人の奴隷が、私の部屋に入ってきて、私にとてもひどいことをしようとしたのです。そこで私が、大声を上げると、彼はあわてて逃げ出しました。この上着がその証拠です。」と作り事を演じました。彼女は自分が悪いのに、それを隠すために、ヨセフを陥れたのです。

そして、主人のポティファルが帰ってくると、ウソの告げ口をしました。ヨセフが彼女にひどいことをしようとしたと言いつけたのです(もちろんヨセフは罪をおかしていません)。するとポティファルは、妻の言うことを信用しました。そして怒りに燃えて、ヨセフを捕らえ、監獄に入れてしまいました。

□ポイント3 ヨセフは監獄のすべてのことを管理するようになりました(21～23節)

ヨセフは、神さまにも、ポティファルにも、何も悪いことをしていませんでした。それなのに、監獄に入れられるなんて、本当にかわいそうです。あなたがヨセフの立場だったら、どんな気持ちになりますか？悔しくて、悲しくて、絶望してしまうでしょう。しかし、神は監獄の中でも、ヨセフとともにいてくださり、支えてくださいました。ヨセフは、監獄の管理をする責任者の人に、非常に気に入られ、信頼されるようになりました。神がヨセフに豊かな恵みを注いで下さり、そのようにして下さったのです。それで監獄の長は、自分が管理していたその監獄にいるすべての囚人を、ヨセフに任せて管理させるようにしました。監獄の長が、囚人であるヨセフに、他の囚人の世話を任せるなんて、普通では考えられないことです(囚人を逃がしたり、暴動をおこしたりされたらたいへんなことです)。それなのに、監獄の長は、「ヨセフの手に任せただけのことについては何も干渉しなかった」とあります。そんな信じられないようなことが起こったのは、「主が彼とともにおられ、彼が何をしても、主がそれを成功させてくださったから」です。普通なら絶望してしまうはずの監獄の中で、神はヨセフとともにいてくださり、支えてくださったのです。

□結論 神さまは、罪を犯さなかったヨセフを祝福されました

暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

ヨセフは誘惑されても罪を犯しませんでした。神さまは、そんなヨセフを大いに祝福されました。たとえ監獄の中でさえも、神さまはヨセフとともにいて祝福を注いでくださいました。みなさんも、誘惑に負けないうで、神さまの祝福をいただきましょう。

適用の例:まず、誘惑を近づけないように、いつも祈りましょう。そして注意して行動しましょう。ヨセフは、ポティファルの妻の言うことに耳もかきませんでした。テーブルの上にケーキがあると、つつい食べてしまうのと同じで、誘惑に近づくと、つつい罪を犯してしまうのです。悪口を言っている人たちの仲間に入らない、人をばかにして楽しむようなテレビは観ない、ゲームセンターには入らないなど、注意深く行動しましょう。

また、ヨセフのように、ハッキリと悪い誘いをことわりましょう。アイツを仲間はずれにしよう、親からお金を盗んで遊びに行こうなどという誘いは、ハッキリと断りましょう。お友だちからの悪い誘いを断る勇気を持ちましょう。確かに、信仰を守り、罪を犯さないように貫いていると、ヨセフが監獄に入れられたように、自分にとって不都合なことも起こるでしょう(だれかを仲間はずれにしなかったせいで、自分が仲間はずれにされるようなことがあるかもしれません)。しかし、神さまが、いつもともに居てくださるから大丈夫です。神さまは監獄の長のような人にさえも働いて、あなたを助けてくれます。だれが何と言おうと、みことばに従っていれば、神さまがあなたを祝福してくださいます。たとえ濡れ衣をきせられて、監獄に入れられても、あなたが神さまを第一にしているかぎり、神さまはあなたにミラクルを起こしてくださいます。

教師ノート

週課	第二年 第一課 第三週
単元	創世記・5
テーマ	試練を与えてくださる神
タイトル	試練の時
テキスト	創世記40章
参照箇所	創世記41:1
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	第一コリント10:13
AG 日曜学校教案参照箇所	小下 2 巻 5 題 6 課、小上 1 巻 1 題 8 課
□導入	私たちを愛してくださる、やさしい神さまが、私たちに苦しいことや難しいことをあたえることって、あると思いますか？
□ポイント1 献酌官長と調理官長は監獄の中で夢を見ました(40:1~8)	<p>ヨセフが監獄に入れられている頃(ヨセフ28歳)、エジプト王の献酌官長と調理官長とが、パロに罪を犯して、ヨセフと同じ監獄に入れられました。侍従長(ポティファル)は、ヨセフに彼らの付き人になるように命じました。献酌官長と調理官長は高い地位の役人だったので、監獄の中でも付き人がつけられたのです。ヨセフは監獄の中で、彼らに仕える身となりました。</p> <p>監獄の中で、同じ夜に、献酌官長と調理官長はふたりとも、不思議な夢を見ました。古代エジプトでは、多くの人が、夢には意味があり、未来のことがわかると信じていました。いったいこの夢は何の意味があるのだろう、と考えましたが分かりませんでした。監獄の中では、夢を解き明かす専門家がいません。</p> <p>朝になって、ヨセフが彼らのところに行ってみると、彼らはイライラしている様子でした。「なぜ、きょうはあなたがたの顔色が悪いのですか。」とたずねてみると、ふたりは「私たちは夢を見たが、それを解き明かす人がいない。」と応えました。ヨセフは、夢を解き明かすことは、人間の知恵できないことを知っていました。まして、未来のことが分かるのは、全知全能の神だけだと信じていました。しかしエジプト人は、創り主なる神を信じていませんでしたので、ヨセフは「さあ、それを私に話してください」と言いました。</p>
☞ 献酌官	古代エジプトの重要な責任のある官僚。王に酌をするだけでなく、王の側近くで仕え、護衛や相談役を務めたと考えられます(ネヘミヤ2:1)。
☞ 調理官	パロの高官。王に食事(おもにパン)を作る仕事は、非常に名誉ある役職でした。
☞ 「侍従長」	はポティファルのことです。彼の家王の監獄が付設されていたということが分かります。ポティファルは、侍従長であり、宮廷の監獄の責任者・司法官のような役もしていたと考えられます。
□ポイント2 ヨセフは献酌官長と調理官長の夢を解き明かしました(40:9~19)	まず、献酌官長が先に、ヨセフに自分の夢について話しました。「夢の中で、私は1本のぶどうの木があるのを見ました。そのぶどうの木には3本のつるがありました。花が咲き、ぶどうの実が熟しました。私はパロの杯を持っていたので、そのぶどうを取って、それをパロの杯の中にしぼって入れ、杯をパロにさせ上げました。」ヨセフは夢の意味を解き明かす賜物を神さまから与えられていました。彼はその夢の意味を説明して言いました。「3本のつるは3日のことです。3日のうちに、パロがあなたを監獄から出し

てください、あなたは以前と同じように、パロの宮殿で働くようになるでしょう。」

ヨセフは、この解き明かしが現実になると信じていたので、続けて献酌官長にお願いをしました。「あなたが監獄から出されて、元の仕事に戻ったとき、私のことを思い出してください。そして私のことをパロに話し、私が監獄から出られるようにしてください。」ヨセフは監獄の生活が我慢できなくなったわけでも、親切にしたことの交換条件を出したわけでもありません。ただ、自分は監獄に入れられるような悪いことは、何もしていないという事実を、パロに理解してもらえれば、自由にしてもらえると考えていたのです。

はじめは外国人の奴隷に解き明かしなんてできるはずがないと考えていた調理官長も、ヨセフの解き明かしが良かったのを見て、自分の夢のことをヨセフに話しました。「私は夢の中で、頭の上に枝編みのかごを3つ乗せていました。1番上のかごには、パロのために調理官が作った色々な食べ物(パン)がはいっていましたが、鳥が来てそれを食べてしまいました。」ヨセフは、その夢の意味を解き明かして言いました。「あなたの夢は、3つのかごは3日のことです。3日のうちにあなたは監獄から出されますが、死刑になります。そして木につるされるので、鳥があなたの肉をむしり取って食べるでしょう。」

- ☞ 15節「ヘブル人の国からさらわれて来た」：この表現は、ヨセフに起こったことを正確に伝えてないように思えるかもしれません。しかし、ヨセフは、自由を奪われ、奴隷として売られるという扱いを受けたのだから、「さらわれた」と同じような気持ちだったのでしょう(申命記24:7、出エジプト21:16参照)。

□ポイント3 ヨセフは2年間、監獄で過ごしました(40:20~23)

3日めに、パロの誕生日の祝宴が行なわれました。王のすべての家来が集めてパーティーをしたのです。監獄の中にいた献酌官長と調理官長は、そこに呼び出されました。なんと、そこでヨセフが彼らの夢を解き明かしたとおりにになりました。パロは献酌官長を元の仕事にもどし、調理官長を死刑にして、木につるしました。

献酌官長と調理官長の刑罰の違いは、彼らの罪の重さが違ったからなのか、それとも、同じ罪を犯したけれど、献酌官長だけが祝宴の特赦を得たからなのか、全く不明です。ただ間違いないことは、神を信じないふたりの夢を、ヨセフが神の知恵によって正確に解き明かしたことです。またエジプトの王の未来の行動まで、神の御手のうちにあったことも確かなのです。

こうして、ヨセフの言ったとおりのことが現実になりました。しかし、自由になった献酌官長は、ヨセフに頼まれたことを、すっかり忘れてしまいました。彼がパロにヨセフのことを話さなかったので、ヨセフは監獄から出られず、2年間も過ごすことになってしまいました。何も悪いことをしていないのに、2年間も監獄で過ごすとは、なんとつらいことでしょう。どうして神は、ヨセフをこんなひどいめに合わせたのでしょうか？

□結論 神さまは、ヨセフに試練を与えられました *暗唱聖句を読み上げます*

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例：ヨセフは無実なのに、2年間も監獄から出られませんでした。せつかく出られるチャンスだと思ったのに、献酌官長は、ヨセフのことを忘れてしまいました。神さまはヨセフを見捨てたのでしょうか？それとも、神さまにとって、ヨセフを監獄から出すことが不可能だったのでしょうか？もちろんそうではありません。監獄での生活は、神さまがヨセフに与えられた試練だったのです。神さまは私たちを用いて、神さまのすばらしさをあらわしてください。それにふさわしい器になるために、神さまは私たちに試練を与えて練ってください。あなたの人生にも神さまは試練を与えられます。「神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に合わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。」試練にあっているときは、ツライし、「なんでこんなことが起こるの!？」と文句を言いたくなります。献酌官長がヨセフのことを忘れたことも無実の罪で2年も監獄に入っていたことも、私たちだったら「神さま、どうして!？」と、不満に思ってしまうそうです。でも、私たちにとっては不本意なことでも、神さまにはちゃんとお考えがあるのです。あなたを用いて、神さまのすばらしさをあらわすためです。大切なことは、神さまを信頼することです。試練には意味があることを信じよう！神さまが目的をもって、試練を与えてくださっていることに気づこう！この試練に耐えたヨセフは、総理大臣になったのです!!!

教師ノート

週課	第二年 第一課 第四週
単元	創世記・5
テーマ	万事を益としてくださる神
タイトル	総理大臣になるヨセフ
テキスト	創世記41:1～42:6
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) ローマ8:28
AG 日曜学校教案参照箇所	小下2巻5題7課、小上1巻1題8課

□ポイント1 ヨセフはパロの夢を解き明かしました(41:1～37)

献酌官長がヨセフのことを忘れてしまったので、それから2年もヨセフは監獄にいました。兄たちによって売り飛ばされてから、13年が経っていました(37:2、41:46参照)。そんなある日、パロが夢をみました。パロは、その夢のことが気にかかって仕方ありませんでした。夢の意味は何だろうかと考えましたが、エジプト中のどんな専門家も、それを解き明かすことはできませんでした。その時、やっと献酌官長が、ヨセフのことを思い出しました。彼は、2年前に起こったことを、パロに伝えました。「監獄にいたときに、ひとりのヘブル人が、私たちの夢を解き明かし、そのとおりのことが起こりました。あの人なら、きっと王様の夢の意味が分かるでしょう。」神はやはりヨセフを見捨ててはおられませんでした。

パロはすぐに、ヨセフを呼び寄せました。ヨセフは、「夢の意味が分かるのは、私ではなく、神さまです。」と言いました。王様の前で、未来を知っているのは創造主なる神だけだと力強く宣言したのです。王様は、ヨセフに夢の話をしました。「私は7頭の太った牛がナイル川から出て来て、草を食べるのを見た。次にやせた、お腹のすいたような牛が7頭また川から出てきた。ところが、やせた牛が太った牛を食べてしまった。それでもやせた牛は、前と同じようにやせていた。そこで目が覚めたのだが、またすぐにもうひとつの夢を見た。それは1本の茎に7本の穂が出て、その穂は良く実って重そうだった。次にやせ衰えた、何もなっていない穂が7本出てきた。見ていると、やせた穂が良く実った穂を食べてしまった。」

ヨセフはパロに答えました。「2つの夢は同じことです。7頭の太った牛と7本の良い穂はエジプトの7年間の大豊作を意味します。7頭のやせた牛と、7本のやせた穂は、エジプトに来る、何も実らない7年間のきびしい不作、大ききんを意味します。神はすぐに、何でも良く育つ7年の大豊作を与えられますが、続いて7年間の非常にきびしいききを起こされるので、何も食べるものがなくなります。ですから王様、どうかすぐに知恵のある人を見つけて、ききんの準備のために、国の指導をするリーダーにしてください。また、国中に監督官を置いて、7年の豊作の間に、十分な食べ物を蓄えさせてください。そうしないと、この地がききんで滅びてしまいます。」ヨセフの語った内容とその様子は、非常に神の知恵と力に満ちていたのでしょう。パロとその全ての家臣は、奴隷であり、囚人であったヨセフの言うことに、すっかり心を奪われ、納得してしまいました。

☞ヨセフは、単に夢を解き明かしたのではなく、神がこれを計画しておられるという確信をもって宣言しました。また、ヨセフは夢の意味だけでなく、パロのとるべき行動まで語りました。

□ポイント2 ヨセフはエジプトの総理大臣になりました(41:38～45)

パロは家臣たちに言いました。「神の霊の宿っているこのような人を、ほかに見つけることができようか。」パロは、ヨセフの言うとおりに、ききんでエジプトが滅びないように、賢い指導者が必要だと考えました。その時、神がヨセフを通して働いてくださっているのだから、ヨセフが最もその指導者にふさわしいということに気がつきました。そしてなんと、さっきまで監獄にいた外国人奴隷のヨセフを、その場で総理大臣に任命すると、宣言しました。ヨセフは、エジプト全国を治め、王様の次に偉い責任者になりました。パ

口は、権威のしるしとして、自分の印の入った指輪をヨセフの指にはめ、立派な服と、金の首飾りを首にかけました。そして「私はパロだ。しかし、あなたの許しなくしては、エジプト中で、だれも手足を上げることもできない。」と、絶大な信頼をよせました。ヨセフは結婚をして、2人のこどもを与えられました。

☞ ツァフェナテ・パネアハ：「神は語られる、そして彼は生きる」という意味だと考えられています。ヨセフは、名前も変え、エジプトの祭司の娘と結婚をしましたが、異教に同化されたわけではありません。ヨセフにエジプトでの役割を与えられたのは、真の神であり、ヨセフはその神を大胆に告白していました。

□ポイント3 世界中の人が食糧を買いにヨセフのところに来ました(41:50~42:6)

ヨセフは総理大臣になったとき、まだ30歳でした。彼は、7年の豊作の間、エジプト全国を管理して、食物を蓄えさせました。量ることができないくらい、十分に多くの食料が蓄えられました。そしてついに、七年の豊作が終わり、七年間の大ききんが始まりました。他の国も、きびしい不作で人々は苦しみました。エジプト中から、ヨセフのもとに、飢えて食物を求める人たちが、ひっきりなしにやって来ました。ききんはますますひどくなり、全世界から、飢えに苦しむ人たちが、ぞくぞくと穀物を買いにヨセフのところに来て来ました。

イスラエルに住むヤコブの一家も、やはり不作で食料が足りず、困っていました。ヤコブは、息子たちに「エジプトへ行って、穀物を買ってきてくれ。」と言いました。大切なアブラハムの子孫である一家が飢え死にして絶えてしまつては大変です。ヨセフの10人の兄は、こうして、エジプトへ穀物を買に行くことになりました(ヤコブは、ヨセフの弟ベニヤミンだけは、どうしても行かせませんでした。ヨセフを失ったように、ベニヤミンまでも災難にあわせたくなかったのです)。しかし兄たちは、エジプトの総理大臣が、まさか弟のヨセフだとは思ひもありません。彼らは、顔を地につけて、ヨセフを拝んだと書いてあります。つまり、なんと兄たちは知らないうちに、ヨセフが初めに見た夢のとおりに行爲をしたのです。これはいったいどういうことでしょう。神は、初めから、ヤコブの一家を守る計画を実行しておられたのです！ヨセフの身に起こった苦しいことも、すべては家族を幸せにするためだったのです。

□結論 神さまはすべてを益としてくださるお方です 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

ヨセフがエジプトに来たきつたけを覚えていますか？彼は兄たちに憎まれて、売り飛ばされたのです。そして、奴隷となり、監獄にまで入れられました。それは、ヨセフが、エジプトの総理大臣になるために、必要な試練でした。そして、それによって、ヨセフの家族をききんから救うことができるようにしてくださったのです。アブラハムの家系が減びることが無いように、神さまは全てを働かせて益としてくださったのです。神さまは何でも知っていて、何でもできるって、ホントなんだね！みなさんの身の回りでも、悲しいことやつらいことがたくさん起こります。その苦しみの中にあるときは、はマイナスにしか見えないことでも、じつは、あなたを幸せにする計画の一部なのです。神さまは必ず最後はプラスにくださるお方です。ヨセフの夢がそのとおりになったように、神さまは私たちの将来をご存知です。神さまはあなたを幸せにするための愛の計画をもってくださっているのです。どんな悲しみや苦しみも、喜びと感謝に変えられる「時」ときが来ます。神さまだけが知っている、一番良いタイミングで与えてくださいます。人間がどんなにがんばって実現しようと焦っても、逆に神の計画を阻止しようとしても、究極的には最後は神の計画だけが成るのです。

1. きつと今までも、苦しかったことが、あとになって「益」になった経験があるはずですよ。それを思い返して、分級のおともだちと話し合ってみよう。そして感謝しよう。
2. 今「ツライな～、悲しいな～」と感じていることも、必ず益になると信じよう。今はマイナスに見えることが、どんなプラスになるのか、想像して話し合ってみよう。そうすれば、希望がわいてくるよ！神さまに期待しよう。
3. 苦しみの中にあるときは、それが益になることを信じられないという人もいます。おともだちのために、とりなしの祈りをしよう。

教師ノート

週課	第二年 第一課 第五週
単元	創世記・5
テーマ	自分に罪を犯した人をゆるす
タイトル	兄弟をゆるすヨセフ
テキスト	創世記42:7～45:28
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) エペソ4:32 or 創世記50:20
AG 日曜学校教案参照箇所	小下 2 巻 5 題 8 課、小上 1 巻 1 題 9 課
メモ(情報・例話など)	テキストの範囲が広いので、教師は聖書をよく読んで、ポイントをしっかりおさえましょう。
□導入	興味を起こす質問をしましょう。 ヨセフは、自分をエジプトに売った兄たちに再会します。自分にひどいことをした兄たちが、目の前にひざまずいているのです。しかもヨセフはすごい権力者になっていました。そのときヨセフがしたことは、復讐？いやがらせ？あなたなら、自分に罪を犯した人に、どんな態度で接しますか？
□ポイント1	ヨセフは兄たちと再会しました(42:7～43:34) 兄たちは、まさかエジプトの総理大臣がヨセフだとは、全く気がつきませんでした。しかし、ヨセフは、彼らが自分の兄たちだと、すぐにわかりました。ヨセフは、荒々しいことばで、「お前たちは敵国のまわしものだろう、…間者でないことを証明するために、末の弟をつれて来い」と言いました。そうすることで、父と弟の安否を探ろうとしたのです。ヨセフはシメオンを人質にしました。兄たちは「昔、ヨセフにひどいことをしたからなあ。あの時ヨセフを助けなかったから、今私たちが苦しみを受けているのだ」と互いに言いました。ヨセフは、思いがけず、兄たちが自分にしたことを悔いる、偽りのない心を垣間見ました。一方ヤコブは断固としてベニヤミンを行かせることを拒みしました。しかし、ききんはさらにひどくなり、もう1度エジプトに食料を調達に行かなければならなくなりました。ベニヤミンを連れて行かないわけにはいきません。ユダが必ずベニヤミンを連れて帰る保障をして説得すると、ヤコブは納得しました。そして、神にゆだねる信仰を持って彼らを送り出しました。ヨセフは兄弟たちと食事をすることにしました。ベニヤミンを見ると、胸が熱くなり、隠れて泣きました。
📌	エジプトの国は、外敵に攻められないように、スパイ侵入には厳しい警戒態勢をしいていました。
📌	兄たちと再会したときヨセフの心の中は複雑でした。ヨセフは、まさきに、父ヤコブと弟ベニヤミンのことが心配になったでしょう。なぜなら、自分を殺そうとした10人だけがエジプトに来て、ヤコブとベニヤミンは一緒ではないからです。「まさか兄さんたちは父と弟も殺したのでは…？」正体を明かしても、兄たちが真実を語ってくれる保障はありません。ヨセフは、どうやってふたりの安否を確かめようか考えました。また、ヨセフのことをまだ憎んでいるのか知る方法を考えました。そこで彼らをスパイ容疑にかけることにしたのです。荒々しい口調になったのは、苦い思い出・再会の喜び・首相としての立場・懲らしめるため・試すため・バレないようにするためなど、さまざまな解釈がありますが、どれかひとつにではなく、すべてが複雑にヨセフの心の中で激しく動いていたと思われれます。 さらにヨセフは、初めに見た夢が実現したことにも気づきました。これもヨセフの心を複雑な気持ちにさせました。1つめの夢が現実になったということは、2つめの夢も同じように実現するということです。そうだとすると、父と母もヨセフにひざまずくことになりませんが、もう1度父と母に合えるということです。そう考

えると、ますます両親と弟に会いたいという欲求が強まってきました。同時に、両親が本当に無事に生きているのか、心配にもなったでしょう。

☞なぜ兄たちの袋に銀貨を入れたのか？家族への親切心、泥棒として陥れるため、ヨセフを金で売ったことを暗示させるため、金を持ち帰りシメオンを見捨てるかどうか試すため…ひとつの理由に限定して解釈することは困難です。ヨセフ自身も、複合した動機をもっていたはずです。

□ポイント2 ヨセフは兄たちの心を見ました(44章)

食事の後で、ヨセフはしもべに、「あの人たちの袋に食料を入れて銀貨を返しなさい。ベニヤミンの袋には、私の銀の杯を入れなさい。」と言いました。そして、兄弟たちが家路についてしばらくしてから、しもべたちに彼らを追わせ、「なぜご主人様の杯を盗んだのか！」と言うように命令しました。彼らには身に覚えのないことですが、調べると、ベニヤミンの袋から銀の杯がでてきました。兄弟たちはヨセフのところに引き返しました。ヨセフは彼らに「(罰として)ベニヤミンを奴隷にする」と言いました。するとユダが「父はすでにヨセフという愛する息子をなくしました。ベニヤミンまで失ったら悲しみのあまり死んでしまうでしょう。私は父にベニヤミンの命は保障すると約束しました。どうか弟の身代わりに私を奴隷にしてください。」と自分を犠牲にして必死でお願いしました。

□ポイント3 ヨセフは兄たちをゆるしました(45章)

ヨセフはそれを聞いて、もうヨセフを殺そうとした以前の兄たちのようではないことをハッキリと確信しました。そして、こらえきれなくなり大声で泣きながら、「私はあなた方が売った弟ヨセフです。」ヨセフは兄たちを責めることをしませんでした。それは、これまでのことは全て、神の計画であったことを信じ、彼らを赦していたからです。兄たちがヨセフを売ったのも、神が彼を先にエジプトに遣わして、エジプトの統治者とし、家族の命を救うためだったと説明しました。すべては神の御手の内にあったことを確信したのです。ヨセフは兄弟ひとりひとりを抱きしめて泣きました。そして、家族をエジプトに呼び寄せました。パロもヨセフの兄弟が来たことを喜びました。父ヤコブはヨセフが生きていて、エジプトの支配者になっていることを聞いても信じられず、初めはぼんやりしていました。ヤコブ一家は、エジプトに移り住みました。

□結論 ヨセフは自分に罪を犯した兄たちをゆるしました

暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

あなたに罪を犯した人を、赦すお祈りをしましょう。ヨセフは兄たちにひどいことをされました。けれど、ヨセフは復讐するのではなく、兄たちを赦しました。あなたも誰かに傷つけられたことがありますね。意地悪をされたことがありますね。本当につらかったでしょう、苦しかったでしょう。しかし、それをうらみ続けたり、復讐してはいけません。ヨセフがもし兄たちをうらみ続けたら、どうなっていたでしょうか？赦さない心でいると、どんどん苦い思いが心からみついてきます。人間関係もドロドロになります。しかし、赦すことができたら、その思いから解放されます。自分に対して罪を犯す人を、自分から赦すのは、とっても難しいことです。しかし、それはイエスさまが私たちにしてくださったことです。ですから私たちも同じようにすべきです。傷ついた心をイエスさまにいやしていただき、あなたもその人を赦すお祈りをしましょう。イエスさまが必ず助けてくださいます。